岩手の風土記シリーズ（２１）　　北上川の源流を訪ねて

北上川（きたかみがわ）は、岩手県中央部を北から南に流れ宮城県石巻市で太平洋にそそぐ一級河川である。岩手町の弓弭の泉（ゆはずのいずみ）に源を発し、盛岡市、花巻市、北上市、奥州市、一関市などを通って北から南へと流れ、宮城県石巻市で追波湾に注ぐ全長 249ｋｍ、流域面積 10,150 ㎢という、東北地方最大の河川で、長さでは日本で５番目、流域面積では４番目の規模である。またその支流には、雫石川、中津川、猿が石川、胆沢川、磐井川などがあり、流域の人々と密接な関係を持っている。川の名前は『日本書紀』に出ているが、いまだにその位置を特定されていない「日高見国（ひたかみのくに）」に由来すると言われる。「日高見国の母なる川」という意味で「ひたかみ」と呼ばれたが、のちに転訛して「きたかみ」となり、やがて「北上」と当て字をするようになったと言われている。又、かつては海上交通の重要な航路としての役割も担っていて、弁財船での物資の運搬が盛んにおこなわれていた。いうまでもなく、種々海産物とともに、京・大阪・江戸の華やかな文化・風習などが盛岡藩に運ばれて来たと言われている。

【北上川の流域マップ】

【国道 4 号線の看板】

【北上川源流公園の案内版】

今回は、この北上川の源流である岩手町の「弓弭の泉」を訪ねた。国道 4 号線を北上し、道の駅石神の丘を右手に見ながらさらに北上し、御堂地区（みどうちく）あたりに着くと北上川源流公園という大きな案内板が目に付く。ここを右折して道なりに行くと御堂観音（みどうかんのん）「新通法寺正覚院（しんつうじしょうがくいん）」というお寺が左側にあり、その右側には「いわてまち川の駅」となって、駐車場と公園が整備されていた。この北上川源流である弓弭の泉は以前、火野正平さんが自転車でめぐる NHK　BS2 の番組「に

っぽん縦断　こころ旅」で訪れた場所でもある。北上川の源流については諸説あるが、国土交通省の一級河川指定でこの「弓弭の泉」が源流と指定されている。この弓弭の泉は御堂観音の境内の中にあり、本堂右手にある巨木の根元から湧き出ていた。この湧き出た一滴一滴が、本流となり太平洋に注ぐと思うと、何かしら感慨深いものを感じる。

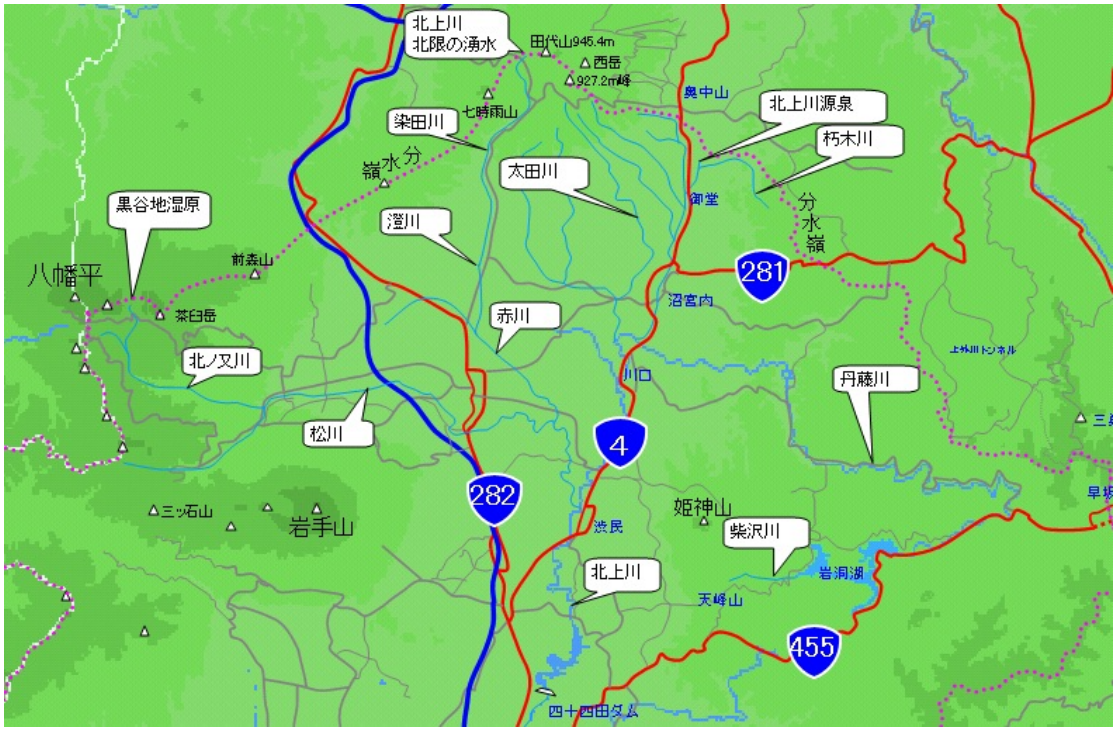
【御堂観音の山門】　【御堂観音の本堂】　【弓弭の泉】

御堂観音の正式名は北上山新通法寺正覚院で、天台宗の寺である。平安時代初期の大同２年（807 年)、坂上田村麻呂が東征の際、立木十一面観音を自刻し、祈願所として建立したと伝わる古刹だ。そしてこの泉にまつわり、次のような伝説が伝えられている。平安時代天喜５年６月、源頼義、義家父子率いる朝廷軍はこの地方の豪族・安倍氏を討つため軍を率い、北へと進軍していたが打続く炎暑に兵馬とも疲弊し、士気も上がらなかった。源義家はふと思い立ったように、小高くて周囲が見渡せる山(一説では岩手町水堀の鞍掛山)へ登ると遥か前方に巨大な杉の木を見つけ、お祈りした。そして義家が天に向かい矢を放つと、普通では考えられないくらい矢は飛び、大杉の根元に刺さった。源義家は森の中へと兵を進め、矢の刺さった大杉の根元を手にしていた弓弭(弓のつるをかける先端部分)で突くと、にわかに清水が湧き出てきた。兵馬ともごくごくと清水を飲みついにはみな生き返ったように元気になり、安倍氏を討ち、のちに「前九年の役」と言われる長く続いた戦乱を鎮圧したといわれている。義家が「弓弭」で掘って湧き出た清水は「弓弭の泉」として人々からあがめられ、今も涸れることなく御堂観音の地に静かに湧き出で、北上川の源として悠久の北上の流れとなっているというものである。

【いわてまち川の駅看板】　【源流公園　①】　【源流公園　②】

いずれにしてもこれからの深緑の季節になり、涼を求めて足を向けてはいかがでしょうか？ところで、北上川源流には地理的にいくつかの説が存在するということをごぞんじであろうか？薮川の岩洞湖を起点とする丹藤川説、またより北側に位置する一戸の西岳説、またさらには北上川北限の湧水地がある七時雨山の田代平高原説などである。下にその概

要を示しが、地図で見るとうなずける部分もある。今回は北上川北限の湧水地となってい



【北上川源流とその支流の関係】

る、八幡平市の七時雨山麓にある田代平に行って来た。ここは旧鹿角街道の頂上付近で、昔は平舘から寺田を通り、安代に抜け、鹿角に向かう主要道であった。坂上田村麻呂もこの道を通ったようで、この地域には数々の田村麻呂伝説が残っている。

【最北の湧水地】

【遊水地の源泉】

【湧水地からの流れ】

最後に岩手町の４号線沿線のお薦めスポットをいくつか紹介しよう。まずは何といっても道の駅石神の丘である。この産直では岩手町の特産であるキャベツをこれからの時期調達ができる。さらに秋になると様々な果物やキノコ類も販売している。つぎは川口にある、「肉のふがね」である。本店は沼宮内の市街地にあるが、数年前に川口に新たに販売店を開店した。ここでは岩手短角和牛の肉はもちろん、和牛の加工品である生ハムや、コロッケなどの総菜やお弁当等も販売していて、我が家の隠れた貴重な調達先となっている。是非皆さんも一度足を運ばれてみてはいかがでしょうか。

参考資料

岩手町観光協会ＨＰ

https://www.nihon-kankou.or.jp/iwate/033031/detail/03303aa1022000717

いわての文化情報大辞典

国土交通省資料　　北上川水系河川整備基本方針について

Wikipedia